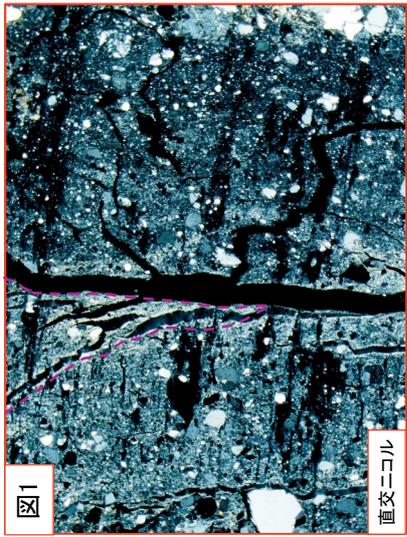


- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 断層面に沿った粘土状部は連続しない。(図1)
- 岩片量は分布は漸移的に変化する。(図2)

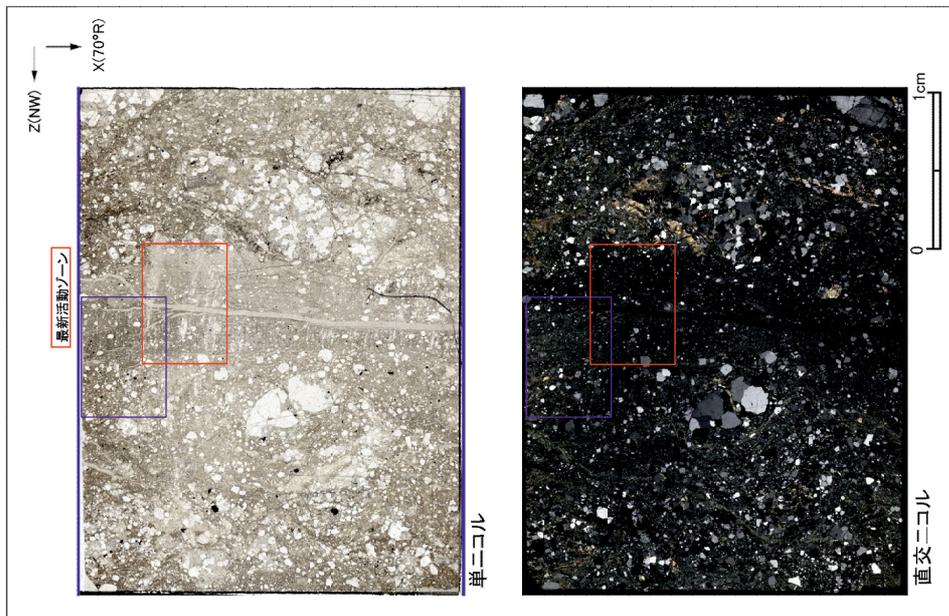


1 mm

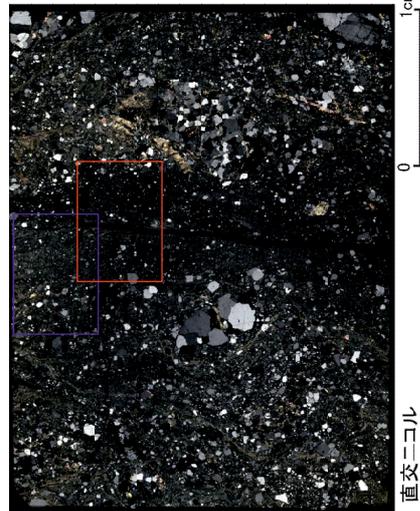


1 mm

破線は粘土状部の分布範囲を示す

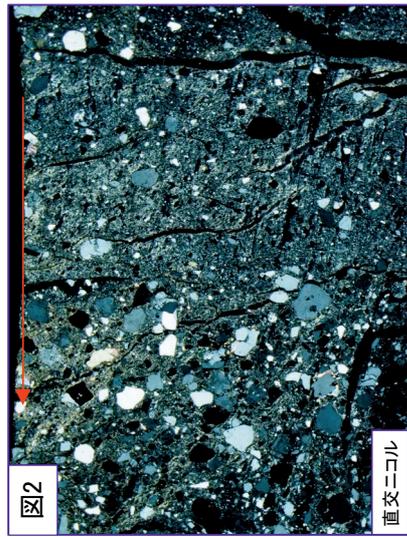


単ニコル

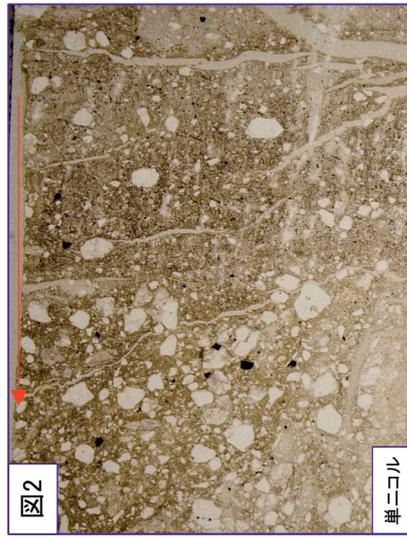


直交ニコル

- 凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト



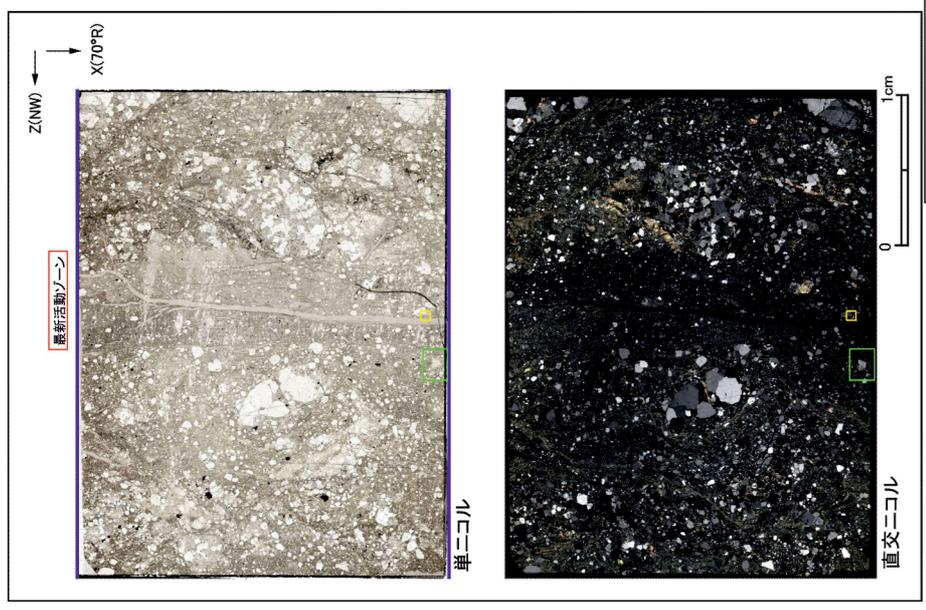
1 mm



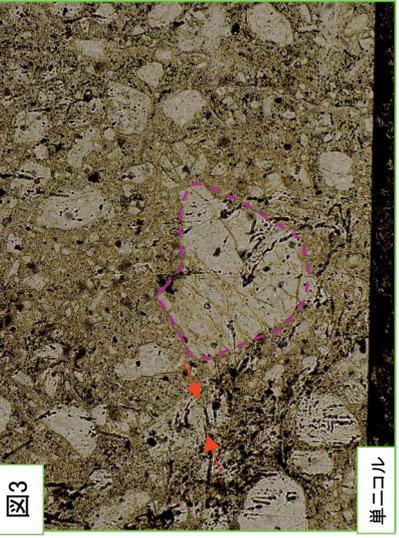
1 mm

赤矢印：岩片量は漸移的に減少する

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図3)
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図3)
- 角ばった岩片が多い。(図3)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図3)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図3)
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図4)



凡例
断層ガウジ
カタクレーサイト

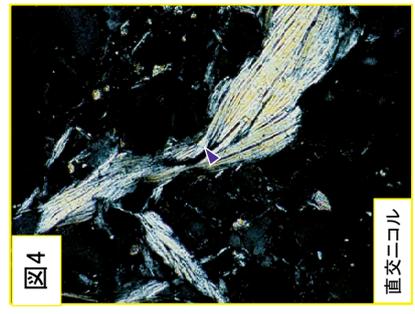
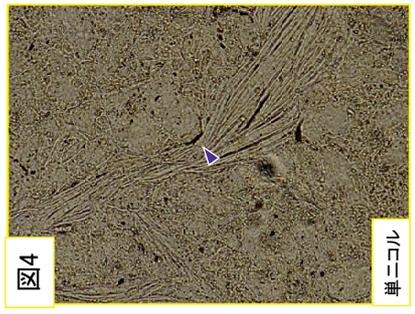
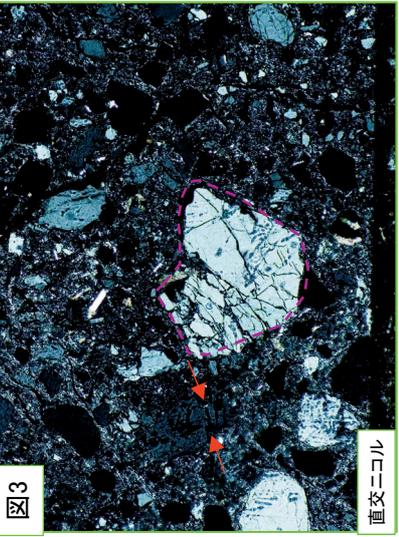


赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す



ステージを反時計回りに
約45度回転

青三角は屈曲箇所を示す
150 μm



(肉眼観察結果 深度53.05m)

- 肉眼観察では、粘土状部は幅が狭いため、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無を把握できなかつたが、軟質で、周囲との境界が漸移的で、直線性や連続性に乏しい。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。含まれる細粒部は、変質したカタクレーサイト中の粘土脈である。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められなかつた。
 - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - 断層面に沿った粘土状部は連続しない。
- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。
 - 岩片量は漸移的に変化する。
 - 多様な粒径の岩片が多く認められる。
 - 角ばった岩片が多い。
 - 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
 - ジグソー状の角礫群が認められる。
 - 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部をカタクレーサイトであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から変質したカタクレーサイトであると評価した。

- 肉眼観察で確認された軟質な粘土状部は、その特徴から変質したカタクレーサイト中の粘土脈であると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴からカタクレーサイトであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・変形構造 *
無	-	-

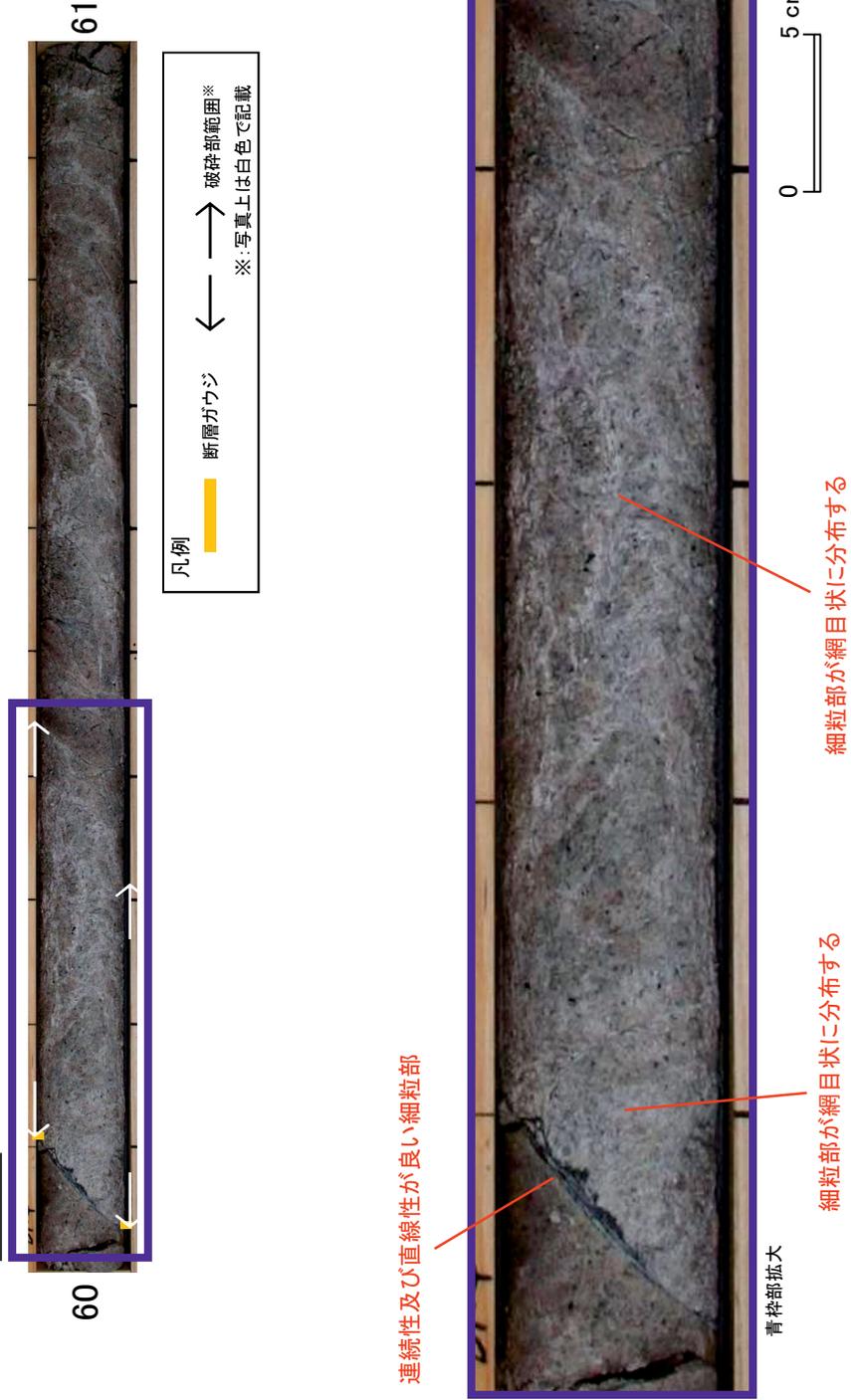
* : 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

- ・深度60.06mの「粘土状」と記載の箇所については、軟質～一部やや硬質で、細粒部の連続性及び直線性及び直線性が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。
- ・深度60.06～60.16mの「粘土質礫状」と記載の箇所については、軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度60.16～60.38mの「粘土混じり岩片状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

●60.06～60.38m：破砕部
 60.06m：粘土状部 (Hc-1)
 傾斜45°で直線的にシャープに連続する幅3mmの軟質～一部やや硬質な暗緑灰色粘土からなる。石英粒や岩片は含まない。
 60.06～60.16m：粘土質礫状部 (Hb)
 上端45°で直線的にシャープに連続、下端は不明瞭。径2～3mmの石英粒、径5～10mmの粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。緑色を帯びた灰白色を呈する。幅約30～50mm。
 60.16～60.38m：粘土混じり岩片状部 (Hj)
 上端不明瞭、下端60°で直線的にシャープに連続。径10mm前後の粘土化～硬さ「D」の花崗斑岩の岩片と岩片間に網状に分布する幅1～3mmの灰白色粘土脈からなる。明褐色～緑灰色を呈する。

コア写真



・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

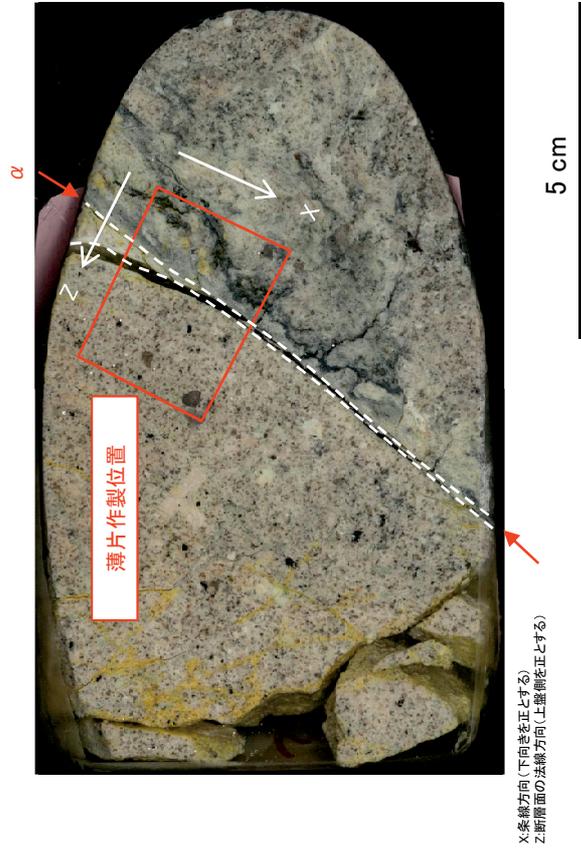
コア写真



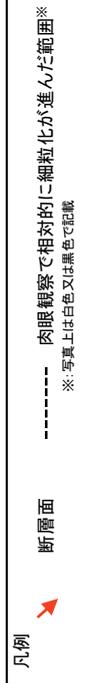
※断層面 α は最新活動面



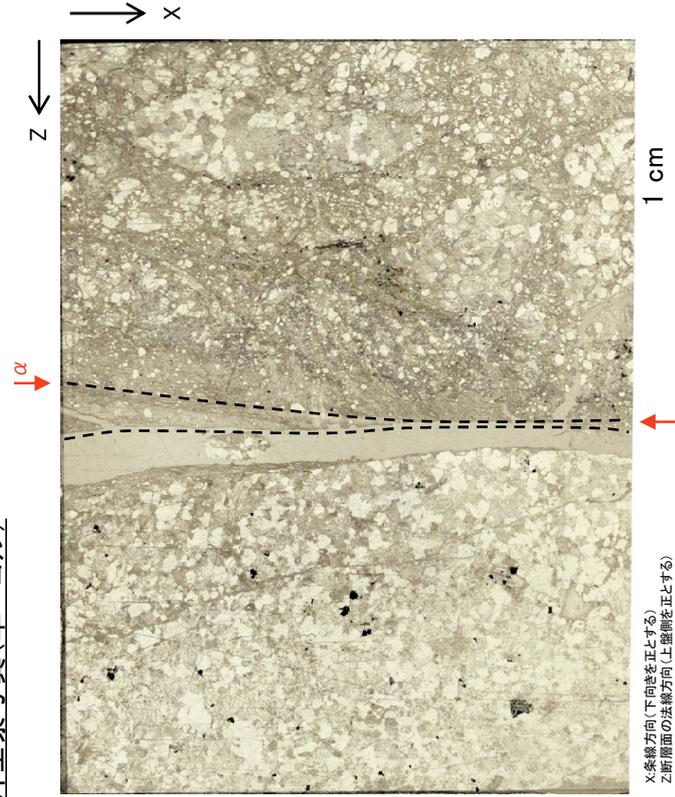
薄片作製位置写真



X:条線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上向きを正とする)



薄片全景写真(単ニコル)



X:条線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上向きを正とする)

